

# 大手電子・電気機器メーカー

## グローバル事業を推進する大手電子・電気機器メーカーが選んだ KCCSのクラウド&セキュリティソリューション

製品の生産・販売をグローバルで展開する大手電子・電気機器メーカーA社では、サーバの保守更新時期をきっかけとして、製品の受発注やメンテナンスなどで利用する外部公開用サーバとセキュリティシステムの刷新を計画。サーバはオンプレミスの仮想環境からクラウドのアマゾン ウェブ サービス(AWS)に移行するとともに、仮想化やクラウド環境に対応するセキュリティ製品を採用した。

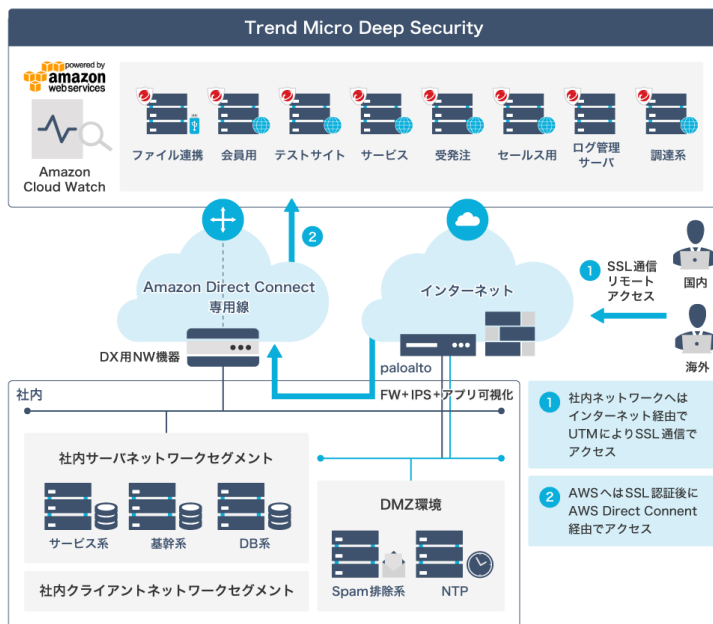
AWSへの移行やセキュリティ製品の導入にあたっては、京セラコミュニケーションシステム株式会社(KCCS)が支援。社内システムとAWSを閉域網で接続するAWS Direct Connectの提案や、クラウドとセキュリティ導入の提案体制が高く評価された。



(左から)  
 京セラコミュニケーションシステム株式会社  
 東日本ITマネジメントセンター部 東京プラットフォームソリューション2課 課長 林 将史  
 セキュリティ営業統括部 セキュリティ営業課 大関 慶  
 東日本営業部 アウトソーシング営業グループ グループ長 小西 佑典

背景・課題	選定のポイント	導入効果
<ul style="list-style-type: none"> <li>物理サーバの更新に <b>手間とコスト</b>がかかっていた</li> <li>物理サーバを所有することなく、<b>リソースの増減に柔軟に対応</b>できるクラウドサービスを検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウドとセキュリティの <b>導入から運用支援までワンストップ</b>で対応</li> <li>公開サーバのクラウド移行に合わせて <b>セキュリティを強化</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンプレミスに比べて、<b>サーバ費用を約2/3に削減</b>できた</li> <li>繁忙期にはリソースを増やし、閑散期にはリソースを減らす、といった <b>柔軟な使い方が可能</b>になった</li> </ul>

リプレイス後のシステム構成図



クラウド移行に対する一般的な導入効果として、まずはコスト削減が挙げられる。A社では、製品の受発注やメンテナンス、営業担当者向けの情報提供などの外部公開用サーバをAWSへ移行し、2015年4月から稼働を開始した。そしてすべてのサーバをクラウド化するのではなく、基幹システムと連携する生産管理システムはオンプレミスで構築し、ハイブリッド環境を構築。「クラウドとセキュリティ、専用の閉域回線を新たにコストとして計算しても、インフラ基盤にかかるコストはずっと安くなります。5年間でオンプレミス環境と比較するとクラウド利用時には約2/3程度に抑えられると試算しています」と、A社担当者は話す。

A社ではもともと基幹系のホストコンピュータのほか、約80台の各種アプリケーション用サーバをオンプレミスで構築・運用していた。そして、サーバ台数の増加に応じて2007年頃から一部のアプリケーションサーバで仮想化に取り組み、サーバ

を集約してきた。しかし「仮想環境でも、5年ごとに行われる物理サーバの更新に手間とコストがかかるため、何か良い方法がないか検討していました」と、A社担当者は当時を振り返る。

近年クラウドサービスの利用が一般的になり、企業システムの選択肢として広がっている。2014年秋頃にA社では仮想環境で構築した公開サーバの更新に合わせ、クラウドサービスの導入を再検討。「リソースの増減に柔軟に対応できるクラウドの導入を本格的に検討しました」とA社担当者は説明する。またクラウド移行に伴い懸念されていたセキュリティ対策も公開サーバの移行と同時に実施することを決定。「従来からファイアウォールやIPSなどは導入していました。クラウドに移行する公開サーバのセキュリティ対策として、新たにWebアプリケーションファイアウォールを導入するほか、アプリケーションごとに設定するアクセス制御機構、従来と同等のIPS機能の導入

などセキュリティに対する詳細な仕様も並行して検討を重ねました」とA社担当者は述べる。

そしてAWS上に移行する新社内システムの構成案が決定。複数の事業者からの提案内容を検討した結果、KCCSの提案を採用した。社内システムは国内外の取引先からのアクセスはもちろん、社内ネットワークからも接続される。そのため、「回線に依存したレスポンス悪化によって業務負荷が増大することを一番気にしていました。そこでまずはコストが割高になるものの閉域網で帯域保証があり、かつ安全にAWSへ接続できるAWS Direct Connectの利用が必須であると考えました。システム設計は閉域接続を前提として独自性を見出し、提案前に入念なヒアリングとすり合わせを幾度も行っています」とKCCS 林 将史は提案時のポイントを振り返る。

## 選定のポイント 信頼できるビジネスパートナー

こうした取り組みに対しA社担当者は「KCCSの担当者は頻りに当社へ足を運び、クラウドへの移行や運用方法などについて親身に相談に乗ってくれました。また悩んでいた際に、この前提であればこの条件が絶対に必要になるので再考、というように妥協がなかったこともビジネスパートナーとして大変心強かった点です。迷っていたAWS Direct Connectについてもそういった提案経緯から利用を決定しました。通信速度も飛躍的に向上し、導入は間違いではなかったと考えます」と評価する。

AWS上のサーバの設定はKCCSが行い、稼働

後の運用はA社が実施する。そのため、KCCSでは運用方法を導入後もレクチャーするなど安定運用支援を早くから約束。「提案時にはインフラとセキュリティの各部門担当者が1つのチームになることで迅速に対応するよう心掛けました。またその上で導入から運用フェーズの支援までをワンストップで提供できるということも早い段階からきちんと伝え続けられました。今回採用いただいたポイントとして、コストダウンは当然、近い距離で一緒に検討を重ねていけるベンダなのだ、という提案スタイルに価値を見出していただけではないかと考えます」と提案の体制についても

KCCS 小西 佑典は述べる。セキュリティ対策としては次世代ファイアウォールとともにトレンドマイクロ社のDeep Securityを導入した。「Deep Securityは低コストで、脆弱性対策、ウイルス対策、改ざん検知など豊富な機能を備えています。その分導入や運用に関しては適切な知識と経験に基づく設計が必要となります。この課題に対し、設計から運用の各フェーズでこれまでの経験を踏まえた解決策を提案した結果、スムーズな導入に繋がれたと考えています」とKCCS 大関慶は説明する。

## 導入効果・展望 今後の展望とグローバル基盤の統制

クラウドのメリットの1つに、柔軟なリソース増減が挙げられる。「製品の生産・販売やメンテナンスはシーズンによって波があります。受発注などのアクセスが増える繁忙期にはリソースを増やし、閑散期にはリソースを減らすといった使い方が

可能なことはメリットとして大きいです」とA社担当者は期待する。A社はグローバルなビジネス基盤として市場の需要動向予測に基づき、生産・販売・在庫計画を一元管理する社内システムや生産管理システムなどのITを強化していく。公開

サーバのほかにも、今後更新を迎えるサーバは多く、クラウドへの移行は常に検討課題となる。KCCSではこれからもA社の要望に応じていく考えだ。

本事例の詳細は ⇒ <https://www.kccs.co.jp/secureowl/case/case10005.html>



京セラコミュニケーションシステム株式会社

随時セミナー開催!

詳しくは <https://www.kccs.co.jp/secureowl/events/>

KCCSカスタマーサポートセンター

フリーコール 0120-911-901

携帯電話・PHS・IP電話など 050-2018-1827

受付時間 平日9:00~17:00

(17:00以降のお問い合わせは自動応答になります。)

KCCSホームページ <https://www.kccs.co.jp/>

E-mail: [kccs-support@kccs.co.jp](mailto:kccs-support@kccs.co.jp)